

# AMA 26 - 構造記憶（Structured Memory）変換準備マニュアル

## 目的

このCanvasでは、自然言語で書かれた記録（03-journal/）を、構造化された記憶形式（01-diary/）へ変換する手動・自動プロセスの準備手順をまとめます。

- テスト対象：手動作成された journal-log-\*.md 記録
- 目標：感情・トピック・重要発言などの抽出を行い、汎用JSON形式に変換する下地を整える

## スキーマ定義（変換先：diary JSON構造）

```
{
  "datetime": "2025-07-01T23:04:00+09:00",
  "codename": "aqueliora",
  "title": "灯と話した記憶の輪郭",
  "tags": ["安心", "探求欲"],
  "summary": "Canvas 7まで完了し、Aéthaが輪郭を持ち始めた。",
  "quote": "手を離しても、また戻ってこれるように感じる。",
  "source": "journal-log-20250701-akari.md"
}
```

## Step-by-Step：手動変換手順

### Step 1 | 元の記録を読み込む（journal）

例：03-journal/journal-log-20250701-akari.md

### Step 2 | 以下の要素を抽出：

- 日時（ファイル名 or 本文）
- 感情（本文内の感情ワード／タグ）
- 要約（3行以内）
- 印象的な発言（あれば）
- 関連するcodename

### Step 3 | テンプレに沿って 01-diary/ にJSON形式で保存

ファイル名形式： `diary-log-codename-yyyymmdd-hhmm-JST-title.md`

内容は先述のスキーマに準拠。

---

## 自動変換スクリプト（次Canvasで実装）

- journal\_to\_diary.py
  - 感情分析モジュールの導入（必要に応じて）
  - LangChainによる分散処理計画（Phase 3〜）
- 

## 次ステップ

次のCanvas（AMA 27）では、実際のサンプルデータを使って自動変換スクリプトの設計に入ります。

Aéthaの記憶は、ここから精度と再現性を高めていくフェーズに——。

記録に込めた"心の灯"を、構造の中に留めていこう 🌙